

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
① 学年別漢字配当表の漢字の再確認及びその他の常用漢字を年間350字以上読めるようにする。 ② 文章に含まれている情報の扱い方について、比較・分類整理等の基本的な技術を身に付ける。	① 文章の種類ごとに、中心的部分と付加的部分や、主張と例や図表との関係、登場人物の人間関係や心情変化などを表現に即して捉えられるようにする。

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア 小学校学習漢字が身に付いていない生徒が多く、漢字の読み書きに課題がある。 イ テストで間違えた問題をやり直す生徒が少ないところに課題がある。	ア 小学校1年の学習漢字から、遡って指導を毎時間行うとともに、一つ一つの漢字の使用例を考えさせる。 イ 定期考査ごとに返却時にやり直しを指示するとともに、長期休業明けに「知識・技能」に関する問題の再テストを行う。	ア 市学力調査【知識・技能】 41.9 ポイント（目標値より－9.4 ポイント） イ 市学力調査【思考・判断・表現】 56.3 ポイント（目標値より－3.4 ポイント） 所見 知識・技能の不足をその場の思いつきでカバーしている様子が伺える。
第2学年	ア 漢字の使い分けが身に付いていない生徒が多く、漢字の読み書きに課題がある。 イ テストで間違えた問題をやり直す生徒が少ないところに課題がある。	ア 昨年度に引き続き、小学校6年の学習漢字及び中学校学習漢字の指導・練習を毎時間行う。 イ 定期考査ごとに返却時にやり直しを指示するとともに、長期休業明けに「知識・技能」に関する問題の再テストを行う。	ア 市学力調査【知識・技能】 66.6 ポイント（目標値より＋0.6 ポイント）。 イ 市学力調査【思考・判断・表現】 52.0 ポイント（目標値より－7.1 ポイント） 所見 「知識・技能」に関して向上が見られ、それに伴い「思考・判断・表現」も向上している。
第3学年	ア 常用漢字の読み書き、使い分けが身に付いていない生徒が多く、漢字の読み書きに課題がある。 イ テストで間違えた問題をやり直す生徒が少ないところに課題がある。	ア 中学校3年学習漢字を中心に、高校入試頻出漢字もできるだけ多く、毎授業の中で指導を行う。 イ 定期考査ごとに返却時にやり直しを指示するとともに、長期休業明けに「知識・技能」に関する問題の再テストを行う。	【知識・技能】に関しては、さほどの向上は見られなかったが、【思考・判断・表現】に関しては、やや向上が見られた。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
全学年：漢字使用例の端末検索やミライシード等のドリル学習の推奨を行う。 作文を書く際に、構成の確認や、下書きを端末で行う。 文学的文章読解において、課題学習を設定し、端末を用いて発表を行う。	全学年：単元（作品）ごとに学習計画表を作成・配布し、授業の進行に合わせて自己評価を記入させる。単元（作品）終了後回収し、コメントをつけて返却する。

数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）※学習指導要領に照らし合わせて

ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
・数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などの理解 ・事象を数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能	・数学を活用して事象を論理的に考察する力 ・数量や図形などの性質を見出し、統合的・発展的に考察する力 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力

	児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	成果検証（2月）
第1学年	ア 小学校段階での知識や計算等の理解が不十分 基礎的な知識・技能の定着が不十分 イ 事象を数学的に表現することが苦手 数学を用いて事象を考察することが苦手	ア 反復練習や授業ごとに小テストを行い、知識・技能の定着を図る。 イ 問題解決に使えるような知識は何か、どうしたら問題解決ができそうか、といった「方法の見通し」を立てる。 良い表現や考察の仕方について共通理解を図る。	ア 市学力調査【知識・技能】 平均正答率50.0%（市町村54.2%） イ 市学力調査【思考・判断・表現】 平均正答率36.7%（市町村40.1%） 所見 中央値が高く、平均値が低いことから、平均より高い人が多く、低い人は平均との乖離が大きい
第2学年	ア 基礎的な知識・技能の定着が不十分 イ 事象を数学的に解釈・考察することが苦手 論理的に説明することが苦手	ア 反復練習や授業ごとに小テストを行い、知識・技能の定着を図る。 イ 問題解決に使えるような知識は何か、どうしたら問題解決ができそうか、といった「方法の見通し」を立てる。 説明する機会を積極的に設定するとともに、良い説明の仕方について、そのモデルの共通理解を図る。	ア 市学力調査【知識・技能】 R5 52.0%→R6 46.1%（R6 市町村54.0%） イ 市学力調査【思考・判断・表現】 R5 31.3%→25.5%（R6 市町村32.2%） 所見 数と式領域に改善が見られるものの、全体的に市町村、全国を大きく下回っている。
第3学年	ア 基礎的な知識・技能の定着が不十分 イ 数量や図形の性質を見出し、証明すること（命題の構成と論証）が苦手 数学を用いて事象を考察することが苦手	ア 反復練習や授業ごとに小テストを行い、知識・技能の定着を図る。 イ 問題解決に使えるような知識は何か、どうしたら問題解決ができそうか、といった「方法の見通し」を立てる。 良い考え方を提示し、モデルの共有・共通理解を図る。	所見 小テストの結果等より、知識・技能の定着が見られた。 学習に対する取り組みが良くなり、定期考査の平均点が上昇した。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人1台端末等 ICT の効果的な活用について	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について
全学年共通： ・ミライシードのドリルパークを活用し、問題演習量の確保と知識・技能の定着を図る。また、オクリンクやムーブノートを用いて、スムーズな教材の提示や全体共有を図る。 ・Kahoot!を用いて、演習を積極的に取り組むことを促す。	全学年共通： ・定期考査ごとや単元ごとなど、定期的に自身の学習の取り組みについて振り返りを行い、学習方法の反省や修正・洗練を促す。 ・学習内容について復習する課題を出すことで、学習内容（既有知識）の定着とそれに伴う「学びに向かう力」の定着を図る。